



# 千寿小だより

令和7年1月8日  
No. 262  
足立区立千寿小学校  
校長 細田 儀広

## 日本の文化と心

校長 細田 儀広

新年あけましておめでとうございます。昨年は正月から地震や事故がありましたが、今年は穏やかな年末・年始をご家族で過ごされ、充実した冬休みになったことと思います。

私は、全校朝礼で毎週子どもたちに話をする際、時事問題や努力している人、季節の行事等について話をしています。季節ごとの行事には、実に様々な行事がありますが、外国から入ってきた行事もたくさんあります。バレンタイン、ハロウィン、クリスマス等、どれも派手で煌びやかな印象が強く、製造業や販売業もイベント的に商品の宣伝をしています。そのせいか、子どもたちは大人が何も言わなくても、自分から行事を楽しんでいる光景が見られます。元々は西洋から伝わったものですが、今では日本の一般的な季節の行事の1つになっているようです。西洋から日本に入ってきた行事に比べ、古くから日本に伝わる年中行事は、どこことなく地味な印象があります。私も子どもの頃は、日本の年中行事等、意識したことはありませんでした。

12月に子どもの前で年の瀬や正月の話をした後、自分が子どもだった頃の年末・年始を思い出しました。普段は離れて生活している親戚が実家に集まり、現在の暮らしや昔の思い出を笑顔で語り合いながら、年越しそばを食べます。一つの部屋に集まりテレビを囲んで、除夜の鐘（テレビ番組）を聞き、年が明けると「新年あけましておめでとうございます」をみんなで言いました。そして、朝にお餅を食べて、初詣に行きます。昭和時代の年末・年始は、こうした光景が日本の至る所で見られたのではないのでしょうか。今、思い返すと、子どもの頃のお正月の思い出は、私にとって家族や親戚と過ごした温かく愛おしいものになっています。時代が変わり、お正月の過ごし方もそれぞれ違うと思いますが、お正月という日本の伝統行事を通して、人との関係を大切にしたり、初詣をして清々しい心で、今年一年間の自分や家族の幸福を願ったりすることは、日本人としていつまでも大切にしたい文化だと思います。

国土交通省白書の国民の意識調査によると、日本人の感性として、「伝統的な文化や風習を尊重し、次世代に引き継いでいく」という項目が第2位となっています。日本人は、明るい知的な美を「をかし」、しみじみとした情緒美を「もののあはれ」とするなど、「美」に対してきめ細やかな感覚をもっています。お正月をはじめとした日本に昔から传承されている年中行事には、自然に対する畏敬の念や感謝の気持ちが込められています。静寂の中に力強さがあり、目立つことを控え奥ゆかしさや品格のようなものが感じられます。「侘び寂び」「おもむき」といった感性は、外国には、あまり馴染みがなく、日本特有の感性なのかもしれません。私たちは、生活の中にある年中行事を通して、幼い頃から日本の文化にふれ、感性（美意識）が研ぎ澄まされることで、日本人としての根幹が形づくられているように感じます。

私も、そうだったように、小学生には日本の行事や文化の良さを実感することは難しいのかもしれませんが、学校は、日本の文化や伝統を子どもたちに伝え、体験させる活動を大切にしていきたいと思います。2025年が子どもたちの成長と笑顔にあふれた年になるよう、今年も教育活動に邁進します。どうぞよろしく申し上げます。